

アライグマ

目科名：食肉目アライグマ科
学名：Procyon lotor
原産地域：北アメリカ～中央アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来動物の駆逐

- ・タヌキやキツネ等の生態が似た動物との競合、駆逐
- ・小鳥類、サンショウウオやカメ等の在来小動物を食べる

産 業：農作物への被害

- ・全国での年間被害額は3億円以上

生 活：家屋への侵入

- ・屋根裏侵入による糞尿被害、爪痕等による建物の破損

健 康：感染症の媒介

- ・アライグマ回虫症や狂犬病等の人への感染のおそれ*1

尾に5～7本のしま



【生息場所・行動・食べ物】

- ・人間の生活場所を含む幅広い環境に生息
- ・木登りが上手く、柱や木等をつたい、隙間があればどこからでも家屋に侵入
- ・冬期は活動が低下
- ・単独で暮らし、なわばりは持たないため、高密度で生息可能
- ・なんでも食べる雑食性で、特に水辺の小動物を好む
- ・動物質では、小型哺乳類、鳥の雛や卵、爬虫類や両生類等
- ・植物質では、果実や木の実、トウモロコシ等の穀類等甘いもの

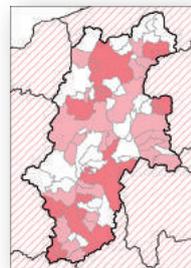
- ・目のまわりに黒いマスク模様
- ・耳はとがって白いふちどり
- ・ヒゲは白い
- ・前足、後足とも5本の長い指



【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・1985～2000年に駒ヶ根市や長野市等で単発的な確認
- ・2001年以降、軽井沢町で定着
- ・2010年以降、県南部で生息や農作物被害を確認
- ・現在は、40市町村で生息を確認



全国では

- ・当初は、ペットとして輸入
- ・1970年代以降、飼育個体が逃げたり、逃がされたりして野外へ
- ・現在は、ほぼ全国（沖縄を除く）に定着



眉間に黒い縦すじ

- ・頭から尻までの長さ（頭胴長）は約50～60cm（中型犬くらい）
- ・尾長は20～40cm
- ・体重は4～10kg（メスよりもオスが少し大きい）

【間違わないで！】

タヌキ (在来種)

体色は茶色・足が黒色
尻尾に縞模様無し

頭胴長：50～60cm
尾長：13～19cm
体重：4～8kg

アナグマ (在来種)

ずんぐりとした体形・尻尾は短い
鼻筋が白く鼻が大きい・強大な爪

頭胴長：52～68cm
尾長：12～18cm
体重：5～13kg

ハクビシン (外来種)

体色は灰色・足と尻尾が黒色
額から鼻にかけて白い筋

頭胴長：48～60cm
尾長：35～49cm
体重：2～5kg

【生活史】



【防除方法】

通報 早期発見が最も重要！

- アライグマを目撃したり、足跡や食べ痕を確認したら、市町村または県地域振興局環境課に連絡する

農業被害の予防 拡大を防ぐ

- 餌になるものを放置しない
 - ・生ごみは決められた時間に出す
 - ・ペットの餌の食べ残しを放置しない
 - ・墓の供え物等は持ち帰る
 - ・出荷規格から外れた農作物を野外に放置しない
 - ・庭の池等のコイや金魚等を食べられないよう、池を金網等で覆う
- 畑等を電気柵等で囲い、農作物を食べられないようにする
 - ・防ぎたい獣種によって適した電気柵が異なるため、アライグマに適した柵の選択が必須
 - ・柵を設置している間は、必ず常時通電させておく



漏電の少ない複合電気柵「菜落くん」
(埼玉県農業技術研究センターが研究・開発)



トウモロコシの食痕

家屋への侵入抑止 拡大を防ぐ

- 家等への侵入口を塞ぐ
 - ・10cm 四方の隙間でも侵入が可能
- 家に立て掛けたはしごや、屋根にかかる庭木等を除去する
 - ・それらをつたって侵入することもある

痕跡や姿の確認 拡大を防ぐ

- すみ家となりそうな場所の有無を確認し、なくす
 - ・侵入されやすい建物（廃屋や空家、神社等）の見回りや管理が重要
- 足跡や食べ痕の有無を確認する
- 自動撮影カメラで撮影する



アライグマ専用箱わな

個体の捕獲 根絶を目指す

- ◎ 捕獲許可が必要になります（お住まいの市町村または県地域振興局環境課に必ず相談を！）
- わなで捕獲する
 - ・選択的に捕獲するには、アライグマ専用箱わな、あるいは巣箱型わなが有効
 - ・餌にはキャラメル味のスナック菓子や揚げパンが効果的（ただし、巣箱型わなは餌が不要！）
 - ・撒き餌はドッグフードを用いると良い
 - ・まわりの農産物を餌として流用しない（農産物の味を覚えさせてしまうため）
 - ・捕獲個体の処分方法については、事前に市町村等に相談しておく
 - ・捕獲結果を記録する（民の設置日、回収日、設置場所、捕獲結果等）



巣箱型わな

【定着・感染症診断にご協力ください！】

- ・県では、目撃情報、捕獲個体を収集しています
- ・情報が多く集まることで、地域での定着度や感染症リスクが分かります

※捕獲個体の送付は県環境保全研究所まで



解剖分析作業



年齢査定用の歯の切片作成風景



鉤頭虫
(アライグマから検出された寄生虫)